

自然を基調にした健康づくりの情報誌

トータルヘルス

Physical Mental Spiritual
Simple Economical Universal
Total Lifestyle Change

No. 79



最も大いなるもの—それは愛—

巻頭言

人は「愛されている」ことを知ると、心が温まり幸せな気持ちがあふれる。この時、身体にも素晴らしい変化が起こる。幸せな気持ちは遺伝子に良い影響を与え、病んでいる組織を修復する。消えかかっている命の息を吹き返す力を発揮することもある。

スコットランドのある女性は、妊娠中に子宮感染症を患い、24週目に早産した。生まれた赤ちゃんはわずか五六〇gで手のひらにも乗るほど小さかった。体はすでに冷たく、心臓の鼓動も約8秒に1回程度であった。医師は、もはや生きる望みはないと診断し、「あと20分くらいで命でしょう」と告げながら赤ちゃんを母親の手に渡した。医師として、もはや何らの救命措置も考えられなかったからだ。母親は子供を胸に抱いた。まもなく命を終えるにしても、こんなに冷たいままではなく、胸の中で温めてあげたいと思ったからだ。父親も同じ気持ちで傍らに寄り添った。「いとしいわが子よ・・・さようなら・・・」二人は涙のうちに別れの時を過ごした。するとどうだろう！ この子供の体が温かくなり、心臓が動き出した。そしてわずかだが呼吸もした。薄黒かった肌はピンク色に変わり始め、2時間後には弱いながらも産声さえあげた！ 一週間後には母乳が吸えるようになり、生後10か月目には標準体重まで回復し退院できた。

この出来事を医師たちは「奇跡だ」と語り、母親は自分の胸のぬくもりが赤ちゃんの心と体を温め、消えかかった命の息を再燃させたのだと語っている。母親の胸のぬくもりは愛のしるしでもあった。わずか24週目の赤子が、その肌から母親の愛情を感知する。そしてその愛には命の息を呼び戻すほどの力があつたのだ。

米国のタッチ研究所は、人に触れるということが、人の体と心にとれほどの良い影響を及ぼすかについて多くの研究結果を発表している。温かいタッチによって痛みは和らぎ、心臓は力強く脈打ち、血圧や血糖値は適正値になり、ガン細胞は休眠を始める。子供の成長にも大きな役割を果たすという。このように、いかなる名医も成し得ない偉大な力が「愛のタッチ」にはあるという。

大切な家族や友にしばしば触れていますか？ 愛する人が健やかで生きることができるよう、あるいは病からの回復できるように、たくさん触れましょう！ 肌のぬくもり、肌と肌の触れ合いには、命の息を吹き返させるほどの力があるのだから。

参照サイト：<http://www.dailymail.co.uk/news/article-500430/Doctors-gave-20oz-baby-dead---I-saved-life-cuddle.html>

Contents 目次

- 巻頭言：最も大いなるもの—それは愛 1
- 愛と遺伝子 2～6
- クッキング：夏に美味しいデザート 7
- 連載：いつまでも若くて元気でいたいから(5) ... 8～9

- 野菜は力⑦：ゴーヤ、らっきょうパワー 10～11
- トピクス（1）：母親の胸の中で蘇生した未熟児 ... 12
- トピクス（2）：お酢は健康に良いものですか？ ... 13
- 体験：重症の高血圧改善、アトピー性皮膚炎の改善 ... 14
- NKKだより：療養中の方々への応援プログラム 16